

## HEEACT の第 1 期と第 2 期のプログラム評価の比較

2006 年～2010 年に実施された第 1 期プログラム評価と 2012 年から実施されている第 2 期プログラム評価について変更点などを比較することを目的とし、下表のとおりまとめた。

表：第 1 期プログラム評価および第 2 期プログラム評価について

	第 1 期	第 2 期
目的	学生に対する良好な学習環境の提供	学生の学習成果の確保
評価対象	1. 高等教育機関のプログラム (軍・警察学校を含む)  2. プログラムの対象 ① 大学および大学院のプログラム ② 学位課程プログラム ③ 経営学 MBA プログラム ④ 学士取得後プログラム	1. 高等教育機関の <b>教養教育</b> とプログラム (宗教学院、放送大学、軍・警察学校を含む)  2. プログラムの対象 ① 大学（学士取得後プログラムを含む）および大学院のプログラム ② 社会人教育プログラム、2 年制専門プログラム、MBA プログラム（夜間・週末・夏季を含） ③ 学位課程プログラム ④ 教養教育センター（1 プログラムとして） ⑤ 軍事大学のうちの専科学校、技術学院の 2 年制プログラム
専門分野	49 分野 プログラムの分野を選択不可	50 分野（ <b>教養教育を追加</b> ） プログラムの分野を選択可能
評価基準	インプットに着目  1. 目的、特長、自己改善の仕組み (Goals, features, and self-improvement mechanism) 2. カリキュラム開発および教育の提供 (Curriculum design and teaching) 3. 学生の学修および学務 (Student learning and student affairs) 4. 研究業績 (Research and professional performance) 5. 卒業生の状況 (Performance of graduates) * 学部・大学院評価の場合は、基準に「機関の統一された発展性」が追加される。	アウトプットに着目  1. 目標、基礎能力、カリキュラム (Goals, core competencies, and curriculum) 2. 教員、教学およびその支援体制 (Teacher, teaching and support system) 3. 学生、学習およびその支援体制 (Student, learning and support system) 4. 研究、社会奉仕およびその支援体制 (Research, service and support system) 5. 自己分析、改善、発展 (Self-analysis, improvement and development) * 学部・大学院評価の場合は、基準 1 を「目標、基礎能力、カリキュラム、再編」とし、参考指標が追加される。
参考指標 Reference Indicators	プログラム計画委員会（Program Planning Committee）が分野ごとの特徴を元に、参考指標、最良事例、基準を調整する。	プログラム計画委員会（Program Planning Committee）が分野ごとの特徴を元に、参考指標、最良事例、基準を調整するが、 <b>各プログラムは参考指標を追加、削除することが可能</b> 。

評価者研修	評価基準、手続き、報告書作成方法等について講義中心に実施（半日）。	<b>演習を中心に、必修3コース（評価倫理・評価実務、評価報告書作成、学生の学習成果に関する評価メカニズムの構築）と選択1コース以上を履修する（12時間）と修了証が発行される。</b>
評価結果の認定	<ol style="list-style-type: none"> <li>各プログラムは認定、条件付き認定、不認定の判定を受ける。</li> <li>1年以内の新規プログラムは認定または条件付き認定のみの判定とする。</li> <li>評価結果公開の年に終了予定のプログラムは評価を免除されるが、評価を受けなければならない課程については、改善案を提示するのみとし、認定結果は出さない。</li> <li>追跡評価において、新たに統合されたプログラムは1年未満の新規プログラムとみなし、認定または条件付き認定のみの判定とする。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>各プログラムは認定、条件付き認定、不認定の判定を受ける。</li> <li>博士課程、修士課程、学士課程、社会人教育課程、MBA取得課程、他学位課程プログラムは、認定、条件付き認定、不認定の判定を受ける。</li> <li>3年未満の新規プログラム（統合されたプログラムは含まない）は他のプログラムと併せて受審する（結果は認定または条件付き認定）か、あるいは第2期の3年目に受審する。</li> <li>評価結果公開の年に終了予定のプログラムは評価を免除されるが、評価を受けなければならない課程については、改善案を提示するのみとし、認定結果は出さない。</li> </ol>
評価結果の公開	評価結果、訪問調査報告書案、訪問調査報告書案に対する異議申し立て、および異議申し立てに対する回答を公表する。	評価受審機関は運営情報公開の原則に基づき、評価プロセスの関連資料（自己評価書を含む）等をウェブサイトに掲載し、情報公開の利便性を考え、HEEACTのウェブサイトにリンクさせる。HEEACTは「評価結果」、「訪問調査報告書案」、「異議申立て申請書」、「異議申立て回答説明」を一般公開する。
評価サイクル	5年ごと	6年ごと

<作成：大学評価・学位授与機構>

参照：HEEACT, *Annual Report 2009*.

<http://www.heeact.edu.tw/lp.asp?ctNode=457&CtUnit=189&BaseDSD=7&mp=4>

HEEACT, 103年度大學校院通識教育暨第二週期系所評鑑實施計畫。

<http://www.heeact.edu.tw/public/Attachment/381515585736.pdf>

Dr. Ru-Jer Wang (2014), *HEEACT Briefing*, 9p.

[http://testserver.inner.niad.ac.jp/n\\_kenkyukai/1242501\\_1207.html](http://testserver.inner.niad.ac.jp/n_kenkyukai/1242501_1207.html)